

第4回獅子吼ゴールデンカップ2011 大会レポート

獅子吼ゴールデンカップ 2011 実行委員会
実行委員長 初瀬 宗子

獅子吼ゴールデンカップは、スカイスポーツを気軽に楽しみながら、基礎技術の向上を目指すという趣旨のもとに4回目を迎えました。石川県内及び福井・富山の北陸勢に加え、毎回参加していただいている愛知・岐阜の「バースアイビュー」チームの皆様を迎え、秋晴れの好天の中2日間の日程を無事終了しました。

当日はパラグライダー会員もオープン参加して、ハング・パラ両方のパイロットが親睦を深めつつ、獅子吼の空を安全に、楽しく飛行することができました。

10月8日(土) 大会初日 晴れ 北東の風

8時より選手受付、ハンググライダー14名、パラグライダー12名がエントリー。
参加賞のTシャツ・笹寿司・飲物など配布。



9時よりスカイ獅子吼パラグライダースクール駐車場のテント前で開会式、実行委員長の開会宣言ののち、大会長中出剛(白山市鶴来支所長)に代わって、産業課課長西本隆から歓迎のあいさつを行い、2日間の大会が始まりました。しかし、金子外幸競技委員長より、本日は北東の風のため獅子吼でのフライトをあきらめ、お隣富山県のつくばねエリアへ移動して競技を行う旨発表があり、さっそく選手全員移動を開始しました。

つくばねエリアでは、滞空時間とターゲットで競技開始。天候・風ともに恵まれ、午後2時半のランディングクローズぎりぎりまでフライトすることができました。



夕方、全員満足して獅子吼に帰着。午後6時より獅子吼高原スカイレジャー運営協議会ハウスにて、スタッフ手作りの芋煮・栗ごはん・パーク獅子吼の牛カレー・地元産のお作り・オードブルなどで、ハング・パラ合同親睦会を開始。エリアの情報交換やフライト技術について、にぎやかに語らいの輪が広

がりました。

宴たけなわとなって、夜のメインイベント「ほうらい祭り」見物へ。まずは金劔宮へ参拝したのち、屋台の賑わいを見ながらうらら館目指して歩きました。うらら館では、産業課の皆様のご好意でふるまい料理や地元のお酒をいただきました。

夜の9時を回ってもまだまだ通りはにぎやかに神輿や造りものが練り歩き、それらを見物しながらまち歩き。宿泊した鶴雲荘でも、再び宴会という充実した1日を過ごしました。



10月9日（日）大会最終日 晴れ 北西の風

朝8時半集合、昨夜の残り芋煮や栗ごはん・牛カレーで朝食。高原のパンと飲物配布。

2日目は天気・風とも獅子吼で良好なコンディションに恵まれ、朝から選手の皆さんも張り切っています。今日の競技内容は、到達高度とランディング基礎技術得点の二つを採点するもの。ベテランパイロットだけでなく、高高度数回のスクール生にも、正確なランディングをすれば高得点のチャンスがあります。午後からは高度も上がり、ベテランの飛びが光りました。

3時までに全員のフライトが無事終了、採点の結果は予想通り世界を飛んだパイロットの二人が、1-2フィニッシュとなりました。





午後4時からテント前で閉会式。産業課の西本課長より、上位入賞者に賞状・賞金、参加選手全員にデサントのスポーツウェア・DAXのザックなどの賞品を授与し、祝辞をいただきました。
最後に実行委員長あいさつ、全員で記念撮影をして全日程を終了しました。



今大会は天候に恵まれ、良好なコンディションのもと開催できましたことをご報告し、選手の皆様、白山市産業課の皆様・パーク獅子吼・スカイ獅子吼様・後援の北陸中日新聞社様・スカイ獅子吼パラグライダースクールのスタッフの皆様から感謝申し上げます。

